

## 「いわきテクノロジーセンター」竣工

### ～先進的金属リサイクル事業の確立に向けた本格実証を開始～

日本化学産業株式会社（社長・角谷 博樹）は、いわき四倉中核工業団地（福島県いわき市）において、2024年春より建設を進めてまいりました、「いわきテクノロジーセンター」がこのたび完成したことから、4月9日に竣工式を執り行いました。本パイロットプラントは、経済産業省から「重要鉱物の供給確保計画」の認定を受けて、当社の先進的金属リサイクル事業の技術開発に向けたテクノロジーセンターとして、建設したものです。



テープカット



社長挨拶

式典には、経済産業省、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）、福島県、いわき市などの行政や地域関係者、当社関係者など約40名が出席しました。式典において、当社の角谷社長は、「私たちの使命は、このテクノロジーセンターで得られる実証データに基づき、次の商業プラント建設を実現することです。世界情勢の予測が難しい中、重要鉱物の供給網を確保することは極めて重要であり、当社もその実現に貢献してまいります。ここ福島県いわき市の四倉の地から生まれるイノベーションの芽を大きく育て、地域やパートナー企業の皆様とともに、持続可能な循環型社会の実現に向けて、貢献したいと考えています」と述べました。

#### ■ 本テクノロジーセンター建設の背景と「成長戦略」における位置づけ

当社は、2023年10月に策定・公表した「新・中期経営計画」において、2030年に向けて「循環型社会の実現」と「脱炭素社会の構築」への貢献をめざす中、薬品事業のビジョンとして「先進的金属リサイクル事業」をはじめとした、ありがたい姿を掲げております。本テクノロジーセンターは、このビジョンを実現するための「成長戦略の一環」として重要な役割を担うものです。

## ■ 「金属リサイクルの技術の強み」と「事業の加速」

当社が長年培ってきた、高度な「分離・精製技術」と「電池材料の研究開発」の相乗効果を発揮させることが当社の大きな強みと考えています。本テクノロジーセンターでは、電気自動車（EV）の使用済み二次電池のブラックマスから、ニッケル、コバルト、リチウム等の希少金属を効率的に分離・精製し、再びEV向け電池材料に戻すという技術実証を行います。これにより、技術開発から事業化に向けた取り組みにつなげ、事業展開をさらに加速させてまいります。

本テクノロジーセンターでの実証を経て、当社は今後、本格的な量産化・事業化を見据え、さまざまなパートナー企業の皆様との協働により、EV向け電池の「クローズドループ・リサイクル」の実現をめざします。

### 【いわきテクノロジーセンターの概要】

所在地：福島県いわき市「いわき四倉中核工業団地」内

概算投資額：約31億円

稼働開始：2026年4月



いわきテクノロジーセンター



研究設備

## ■ ご参考

●プレスリリース：「先進的金属リサイクル事業」に向けて、パイロットプラントの建設を決定。（2024年9月26日）  
（リンク先 <https://www.nihonkagakusangyo.co.jp/news/detail/5873/>）

●「先進的金属リサイクル事業」に向けて  
（リンク先 <https://www.nihonkagakusangyo.co.jp/chemicals/recycling>）

●新・中期経営計画（2023年10月）  
（リンク先

[https://www.nihonkagakusangyo.co.jp/assets/pdf/ir/mid-term\\_management\\_plan\\_jp.pdf](https://www.nihonkagakusangyo.co.jp/assets/pdf/ir/mid-term_management_plan_jp.pdf)）

### 【お問い合わせ】

日本化学産業 薬品事業統括本部 事業管理室

TEL 03-5246-3456

ご関心のある方は、お問合せ下さい。

<https://www.nihonkagakusangyo.co.jp/>